

施策の柱	生きがい生まれるまちづくり
施策名	ボランティアの育成・活動支援

1 施策の概要

事業名	所管課	対象 (誰を、何を)	意図 (どういう状態にする)
(1) 遊び名人	社会教育課	遊び名人 40 人	子どもに対するもの作りや昔遊びなどの体験活動を支援する協力者を要請する。
(2) 青少年ボランティア「Guppy (グッピー)」	社会教育課	登録者 27 人	子どもを対象とした事業への協力者を育成する。
(3) 青少年ボランティア「成人式実行委員会」	社会教育課	新成人 先輩実行委員	実行委員を編成し、成人式の企画、立案及び運営を行う。
(4) 文化財ボランティア	文化財課	市民	資料の展示解説、資料館事業の支援、やきもの作り教室等の協力者を養成する。
(5) おはなしボランティア	図書館	おはなしボランティア及び活動希望者	おはなしボランティアを育成し、支援する。

2 施策のこれまでの経過・今後の見通し

事業名	これまでの経過 (前年度までの取組)	今後の見通し・計画
(1) 遊び名人	15 年度 ボランティア養成講座(遊名人 マスターコース)10 回 活動実績 13 回 16 年度 遊名人マスター10 回 活動実績 18 回 17 年度 遊名人マスター12 回 活動実績 21 回 18 年度 遊名人マスター12 回 活動実績 29 回	引き続き実施する。

	19年度 遊名人マスター12回 活動実績26回	
(2) 青少年ボランティア「Guppy（グッピー）」	17年度 開設	引き続き実施する。
(3) 青少年ボランティア「成人式実行委員会」	14年度以降 実行委員会形式	21年度 6月 実行委員募集 7月 OB及びOGによる準備委員会 8月 実行委員会開始 12月 22年成人式の内容完了
(4) 文化財ボランティア	資料館及び歴史公園の展示開設 歴史散歩、体験教室及び企画展示の支援 研修会（定例）	ガイドボランティア会員の増加及び要請を推進し、市民サービスの向上及び文化財保護意識の普及を図る。
(5) おはなしボランティア	毎年 ボランティア講座（初心者コース及び経験者コース）を実施 17年度以降 小学校読書ボランティア交流会を実施	ボランティア講座及びボランティア交流会を継続し、新規のボランティアの育成及び活動中のボランティア支援を行う。

3 20年度の施策の実施結果・業績指標

事業名	実施結果・業績指標
(1) 遊び名人	定例回数 12回 活動実績 37回
(2) 青少年ボランティア「Guppy（グッピー）」	社会教育事業の協力者（スタッフ）として参加。
(3) 青少年ボランティア「成人式実行委員会」	7月にOB及びOGによる準備委員会開催 8月～2月に実行委員会開催 アトラクション部会及びパンフレット部会に分かれて企画、検討及び準備 パンフレット部会は6回開催 OB及びOG18人、新成人14人の32人で構成
(4) 文化財ボランティア	資料館ガイドボランティア（展示解説155人、資料館事業116人、研修会203人） やきものボランティア（やきもの教室69人、研修会144人）

(5) おはなしボランティア	<p>おはなしボランティア講座初心者コース（地域及び学校） 参加者数 30 人、計 5 回</p> <p>おはなしボランティア講座経験者コース（昔話） 参加者数 22 人、計 5 回</p> <p>小学校読書ボランティア交流会（講演会、分科会） 参加者数 148 人</p>
----------------	---

4 成果と評価

コミュニティ・スクールが増加したため、ボランティア活動の場が広がった。
遊び名人については、前年度に比べて活動実施回数が増え、ボランティアの活動の支援ができた。

文化財ボランティアについては、ボランティアの支援により市民サービスが向上するとともに、事務の効率化が図られた。

おはなしボランティアについては、講座及び交流会の実施により、ボランティアの育成及び支援が継続的に実施できた。

成人式実行委員会については、OB、OG 実行委員及び新成人が成人式の企画運営に携わることにより連帯感が生まれ、個々にリーダーとなる資質が醸成された。また成人式当日は、参加者との一体感が生まれた。

5 今後の課題・取組の方向

遊び名人については、引き続きボランティアの活動を支援する。

青少年ボランティア「Guppy（グッピー）」については、登録者とボランティアの受入先の増加を図る。

文化財ボランティアについては、今後は文化財保護意識の普及及び市民サービスの向上のため、更なる会員の増加及び要請を図る。

おはなしボランティアについては、急増する学校読書ボランティアへの支援、おはなしボランティア以外の図書館ボランティア（図書館サポーター）の発足等が課題である。

成人式については、人材の確保及び育成が課題であり、青年ボランティアは継続していく。

施策の柱	生きがい生まれるまちづくり
施策名	専門委員・指導員との連携

1 施策の概要

事業名	所管課	対象 (誰を、何を)	意図 (どういう状態にする)
(1) 社会教育委員	社会教育課	社会教育事業	社会教育に関する計画、答申及び提言を行う。
(2) 生涯学習推進委員	社会教育課	地域	生涯学習活動を推進する。
(3) お宝文化人	社会教育課	市民	文化の推進及び浸透のために活動する。
(4) 文化財専門委員	文化財課	学識経験者	文化財の保存及び活用に関して、調査及び研究を行う。
(5) 図書館協議会委員	図書館	市民	図書館運営に市民の声を反映する。
(6) 体育指導員	スポーツ課	市民	市民の体育及びスポーツの振興を図る。
(7) 文化芸術審議会委員	文化振興課	春日市における文化芸術活動	審議により、個性豊かな文化芸術事業の企画及び運営に関して提言を行う。

2 施策のこれまでの経過・今後の見通し

事業名	これまでの経過 (前年度までの取組)	今後の見通し・計画
(1) 社会教育委員	提言 14年度 地区公民館の活性化 15年度 中央公民館の在り方 19年度 親育つ計画	現在の任期中(22年5月未まで)に新たな提言を行う予定。 (本題)学校・家庭及び地域等における連携協力の推進方策について ～社会教育からのアプローチ～
(2) 生涯学習推進委員	平成8年設置 会議 年10回開催	21年度廃止
(3) お宝文化人	18年度 お宝文化人を登録 文化祭でのお披露目を実施	21年度 文化祭でのお披露目を実施 2次募集を実施
(4) 文化財専門委員	昭和49年4月発足 定数15人以内(現実数12人) 任期2年	部会の統廃合を検討し、学識者としての専門知識を生かし、更なる文化財の保存を図る。

	4 専門部会（考古、植物、歴史及び民俗）	
(5) 図書館協議会委員	平成 7 年 春日市図書館協議会設置 定数 10 人以内 任期 2 年 図書館運営について協議を行う。	今後も図書館運営における課題について意見を求め、図書館運営に生かす。
(6) 体育指導員	ニュースポーツ出前講座の開催 実技講習会の開催 体育指導委員の能力向上のための研修会	月 1 回の実技講習会の開催
(7) 文化芸術審議会委員	ふれあい文化センターの運営を財団から直営に切り替えたことを機に 18 年度設立	諸文化芸術事業について、意見を求め継続して設置

3 20 年度の施策の実施結果・業績指標

事業名	実施結果・業績指標
(1) 社会教育委員	会議開催回数 6 回 研修会等への参加 4 回、参加委員延べ 10 人
(2) 生涯学習推進委員	会議開催回数 年 10 回
(3) お宝文化人	春日市のお宝文化人・文化百選 P R 展を実施 開催日数 2 日、入場者数 389 人 参加者数 60 人（2 日間で、実行委員、披露者及び体験コーナースタッフ） お宝文化人会合数 10 回
(4) 文化財専門委員	21 年 3 月 9 日 歴史部会 武末家文書（須玖南 3 丁目）の受入れについて 21 年 3 月 12 日 考古部会 20 年度発掘調査の概要報告 大南 A 遺跡 7 次調査ほか 3 件
(5) 図書館協議会委員	会議開催回数 3 回 20～21 年度諮問事項 「春日市における市民図書館と学校図書館の連携のありかたについて」 21 年度中に答申予定
(6) 体育指導員	ニュースポーツ出前講座 7 回開催 ニュースポーツ講習会 21 人参加 ニコニコすこやかレクリエーション 43 人参加
(7) 文化芸術審議会委員	審議会開催回数 年 3 回

4 成果と評価

社会教育委員については、

新たな提言に向けた検討及び協議を行い、テーマを『子どもの「生きる力」を育むための教育力の向上の取組』として、本題を『学校、家庭及び地域等における連携協力の推進方策について～社会教育からのアプローチ～』として、21年度に具体的な内容の検討を行う。本市登録社会教育関係団体（20年度は20団体）の登録の決定に当たり意見を求めた。

上記のうち、17団体ある補助団体について、その支出に当たり意見を求めた。

文化財専門委員については、

歴史部会

調査依頼した史料は、地域の歴史を解明する上で重要な資料であるとの見解を得て、今後のため保存し、活用していく。

考古部会

20年度の発掘調査の概要及び重要遺物について報告した。委員の意見については、今後の参考としていく。

図書館協議会委員については、活発な協議を行い、図書館運営について意見を求めた。

体育指導委員については、実技講習会を毎年2回開催しているが、年々参加人数が減少している。その原因としては、実技競技のマンネリ化及び講習会を運営している体育指導委員の認知度の低さが挙げられる。

お宝文化人については、20年度にPR展を実施したことで、文化人同士の交流が盛んになり、本市の文化行政を支えるものとなった。

文化芸術審議会委員については、ふれあい文化センターの諸事業の企画及び運営に意見を求めた。

5 今後の課題・取組の方向

社会教育委員については、20年度中に定めた21年度提言テーマ、本題及び具体的な検討内容の研究及び協議を行い、現在の任期中での提言の策定を目指す。

文化財専門委員については、

歴史部会

目録を作成する。（小作経営、耕地整理、溜池築堤に関する資料、三筑中学校関係等）

考古部会

御陵遺跡2次調査及び坂本地区の報告書に関する意見聴取予定。

図書館協議会委員については、答申の内容を実際の図書館運営に生かせるよう取り組む。

体育指導委員については、体育指導委員の役割について市民への周知を徹底する。また、体育指導委員が地域において自発的に活動していくことができる環境づくりを行う。

お宝文化人については、広く市民に周知し、活用してもらえるよう広報に努める。

ふれあい文化センター諸事業の企画及び運営に当たっては、専門家及び市民からの意見が必要なため、引き続き文化芸術審議会を開催する。

施策の柱	生きがい生まれるまちづくり
施策名	市民の活動・学習の推進

1 施策の概要

事業名	所管課	対象 (誰を、何を)	意図 (どういう状態にする)
(1) 春日市文化祭	社会教育課	市民	市民の文化への認識を高め、文化的なまちづくりに寄与する。
(2) 中央公民館事業	社会教育課	市民	高齢者学級など市民の学習機会を提供する。
(3) お宝文化百選	社会教育課	市民	市で選定した名所などの紹介により春日を学ぶ機会を提供する。
(4) えほん展	図書館	えほん展運営ボランティア	市民参加による事業を展開する。
(5) 障害者の就労体験	図書館	就労を希望する障害者	障害者へ外部実習の場を提供する。

2 施策のこれまでの経過・今後の見通し

事業名	これまでの経過 (前年度までの取組)	今後の見通し・計画
(1) 春日市文化祭	昭和 49 年度から開始	21 年度 文化振興課へ移管
(2) 中央公民館事業	17 年度末に見直し	引き続き実施する。
(3) お宝文化百選	18 年度 お宝文化百選を登録 19 年度 中央公民館事業において、お宝文化百選講座を開設	21 年度 2 次募集を実施
(4) えほん展	19 年度 県立美術館の企画に併せて実施 運営ボランティアを募集	21 年度以降の実施については未定
(5) 障害者の就労体験	18 年 10 月以降 市長部局(福祉支援課)の要請により、就労体験を開始 館内整理日(月 1 回)における書架整理を行う。	21 年度 これまでの課題を踏まえ、年 1 回の特別整理期間における就労体験を実施 22 年度以降については未定

3 20年度の施策の実施結果・業績指標

事業名	実施結果・業績指標
(1) 春日市文化祭	来場者数 7,596 人、開催日数 2 日 (作品展示) 出品数 634 点、出品者数 415 人 (各種団体展) 参加団体 13 団体
(2) 中央公民館事業	くらしの教養講座(全 5 回) 受講者数計 152 人 高齢者学級 「十八番講座」(全 17 回) 受講生 36 人 「楽笑人生講座」(全 9 回) 受講生 21 人 政治学級 「春日を見つめよう学級」(全 10 回) 受講生 33 人
(3) お宝文化百選	市民講座「お宝文化百選講座」(全 5 回) 受講生 36 人
(4) えほん展	市単独事業としてえほん展を実施 えほん展運営ボランティア数 17 人 えほん展参加者数 1,535 人 えほん展関連イベント参加者数 59 人
(5) 障害者の就労体験	就労体験人数(実数) 18 年度 4 人、19 年度 8 人、20 年度 8 人 就労体験日数(実数) 18 年度 6 日、18 年度 12 日、20 年度 12 日

4 成果と評価

春日市文化祭については、市民相互の文化交流の場及び生涯学習の成果の発表の場を提供し、文化的なまちづくりに寄与した。

中央公民館事業については、特に高齢者学級において地域での実践活動を組み入れ、より充実した学習機会の場を提供することができた。

お宝文化百選については、講座を行うことにより、春日を学ぶ機会を提供できた。

えほん展については、準備段階からボランティアが参加し、多くの市民が参加する事業を実施することができた。

障害者の就労体験については、図書館で作業することを通して就労体験をすることができた。

5 今後の課題・取組の方向

春日市文化祭については、21 年度から文化振興課へ移管して実施する。

中央公民館事業については、市民のニーズに応えた事業の企画及び立案を行う。

お宝文化百選については、21 年度に 2 次募集を行う。引き続き、講座及び広報を行い周知に努める。

市民図書館の取組としては、えほん展にとどまらず、市民と共に育てる図書館づくりを進めていく。

障害者の就労体験については、市長部局(福祉支援課)からの依頼に応じて、18 年度から体験就労の受入れを開始したが、月 1 回の体験では不十分との指摘もあり、21 年度は数日連続して就労体験ができるよう特別整理期間に実施することとした。今後も可能な限り就労体験の場の提供を行う。

施策の柱	生きがい生まれるまちづくり
施策名	豊かさと生きがいをめざす生涯学習の推進

1 施策の概要

事業名	所管課	対象 (誰を、何を)	意図 (どういう状態にする)
(1) 社会教育関係団体の育成・支援	社会教育課	市民	社会教育関係団体との連携及び協力により、社会教育を推進する。
(2) 地区公民館の整備・拡充	社会教育課	地区公民館	新設、整備及び改修を行う。
(3) 学校開放事業	社会教育課	市民	学校施設を開放し、市民の活動支援及び地域に開かれた学校づくりの推進に寄与する。
(4) 人権・同和教育に関する研修・啓発	社会教育課	職員 市民	人権感覚を高める。

2 施策のこれまでの経過・今後の見通し

事業名	これまでの経過 (前年度までの取組)	今後の見通し・計画
(1) 社会教育関係団体の育成・支援	社会教育関係団体に対し支援 (補助金交付、施設使用料免除、活動場所の提供等)をする。	引き続き実施する。
(2) 地区公民館の整備・拡充	17年度 須玖北公民館トイレ改修 18年度 塚原台公民館建設のための用地取得 19年度 造成及び建築工事の測量及び設計調査業務を実施。公民館建設用地内にある樹木の移植及び仮囲の設置	21年度 市長(地域づくり課)の補助執行へ
(3) 学校開放事業	春日市生涯学習推進のための学校開放に関する規則に基づき、体育館、武道場、多目的ホール、特別教室及び運動場を開放	引き続き、施設の積極的な開放及び同規則に基づくモデル校(自主管理校)の推進(現在2校)

	春日市生涯学習推進のための学校開放推進運営委員会に関する要綱に基づき、全小中学校に設置された同委員会に100千円の補助	
(4) 人権・同和教育に関する研修・啓発	社会教育関係団体等人権研修 P T A 450 人、中央公民館主催講座 100 人、地区公民館長 40 人、少年相談員 40 人（事業費 209 千円） 筑紫地区社会教育関係職員等同和研修会 4 市 1 町 173 人（うち本市 25 人）	引き続き、全小中学校 P T A その他の社会教育関係団体に呼びかけた人権学習会、中央公民館開設講座、家庭教育学級における人権研修会等を開催し、あらゆる機会をとらえた人権・同和教育に関する研修・啓発を行っていく。

3 20 年度の施策の実施結果・業績指標

事業名	実施結果・業績指標	
(1) 社会教育関係団体の育成・支援	春日市少年の船 春日市少年相談員連絡協議会 春日市青少年育成市民会議 各地区の子ども会育成会 春日市子ども会育成会連絡協議会 春日市生涯学習団体連絡協議会 春日市婦人会 春日市文化協会	1,086 千円 1,011 千円 1,527 千円 1,170 千円 380 千円 1,948 千円 144 千円 1,052 千円
(2) 地区公民館の整備・拡充	塚原台公民館の新設 料理講習室空調整備 公民館のバリアフリー推進（トイレ改修）	
(3) 学校開放事業	多目的ホールの開放 地域活動のほか登録団体 21 団体、管理指導員賃金 12,480 千円、開放回数 960 回 特別教室の開放 地域活動のほか登録団体 1 団体、警備委託費 625 千円、開放回数 82 回 各小中学校学校開放推進運営委員会 18 委員会 × 80 千円 = 1,440 千円	
(4) 人権・同和教育に関する研修・啓発	P T A その他の社会教育関係団体に対する研修会、中央公民館くらしの教養講座、家庭教育学級等における人権をテーマとした講座の開催（回数 14 回、参加人数 1,400 人） 筑紫地区社会教育関係職員等同和問題研修会の開催（回数 2 回、参加人数 215 人うち本市 47 人） 成人式実行委員に対する人権学習の開催及び成人式パンフレットへの人権啓発ページの掲載	

4 成果と評価

社会教育関係団体の活動支援ができた。
地区公民館の整備・拡充については、生涯学習の場である地区公民館の整備ができた。
学校開放事業については、学校、地域、家庭等から選出された委員で構成される学校開放推進運営委員会において取り組まれた様々な活動は、地域に開かれた学校づくり、校区に根ざした生涯学習の推進及び学社連携の取組の推進に大いに貢献できた。
人権・同和教育に関する研修・啓発については、一人ひとりの人権が尊重されるまちづくりに向けた、様々な取組に終わりはないため、人権・同和教育の解決に向けて、人権に対する正しい知識と人権意識の高揚を図るための研修会及び学習会を今後も開催していく。

5 今後の課題・取組の方向

社会教育関係団体の育成・支援については、団体独自の自主財源確保が必要である。
地区公民館の整備・拡充については、21年度から市長（地域づくり課）の補助執行となった。
学校開放事業については、引き続き学校開放推進運営委員会で行われる学校開放事業を積極的に支援していく。また、学校施設の開放については、自主管理方式による小中学校を拡充していく。
人権・同和教育に関する研修・啓発については、引き続き、人権・同和教育に関する研修会を開催する等、人権・同和教育の機会の提供を図るとともに、地域や家庭など身近にある様々な問題を主体的に解決しようとする、自立した心豊かな市民の育成を図るための学習機会の提供を行っていく。

施策の柱	生きがい生まれるまちづくり
施策名	市民の暮らしを支える生涯学習拠点としての市民図書館づくりの推進

1 施策の概要

事業名	所管課	対象 (誰を、何を)	意図 (どういう状態にする)
(1) 非来館者向け情報サービスの強化	図書館	市民	自宅のパソコン及び携帯電話で、図書館サービスが受けられる。
(2) 情報検索についての講座の実施	図書館	図書館の利用者	自分の必要とする情報を、正確かつ迅速に入手することができる。
(3) 育児情報提供の充実	図書館	図書館の利用者	多様な子育て情報を入手し、生活に役立てることができる。
(4) 移動図書館サービスの充実	図書館	図書館から遠い地域の市民	自宅の近くで図書館サービスが受けられる。

2 施策のこれまでの経過・今後の見通し

事業名	これまでの経過 (前年度までの取組)	今後の見通し・計画
(1) 非来館者向け情報サービスの強化	12年度 図書館ホームページを開設 18年度 インターネット予約を開始 19年度 ホームページリニューアル	来館が難しい市民が図書館サービスを受けられるよう、今後も継続してサービスを実施する。
(2) 情報検索についての講座の実施	19年度 ホームページ利用講座及び検索	市民のニーズに応える形で内容や方法を検討する。
(3) 育児情報提供の充実	17年度 くらしの情報コーナーに育児情報コーナーを設置 19年度 児童コーナーに育児情報コーナーを移転	今後も継続して情報提供を実施する。
(4) 移動図書館サービスの充実	5年度以降 移動図書館車たんぼ号を運行	今後も継続して運行を実施する。

3 20年度の施策の実施結果・業績指標

事業名	実施結果・業績指標
(1) 非来館者向け情報サービスの強化	ホームページの情報更新（毎月）
(2) 情報検索についての講座の実施	20年度 講座の実施はなし 今後に向けて、内容や実施方法等の検討を行う。
(3) 育児情報提供の充実	育児情報の更新（随時）
(4) 移動図書館サービスの充実	市内16ステーションを週1回巡回し、貸出、返却、予約及び読書相談を行う。

4 成果と評価

市民の役に立ち、暮らしを支える図書館を目指して様々なサービスを実施している。市民の求める最新の情報を収集し、提供することは、現在の図書館の重要な使命である。ホームページでの情報提供及び育児情報の提供は、市民のニーズに応えるものであり、多くの市民に利用された。また、移動図書館サービスは図書館から遠い地域の高齢者や子ども連れの市民の利用を促進した。

5 今後の課題・取組の方向

今後も市民の暮らしを支える生涯学習拠点としての市民図書館づくりを積極的に推進する。そのために、市民が図書館に求めるものを的確にとらえ、日々変化する時代に合わせ進化していく図書館であるとともに、市民が使いやすい図書館づくりを行う。